

平成19年1月26日

各 位

会社名 トッキ株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 津上健一  
 (JASDAQ・コード9813)  
 問合せ先 執行役員 経営統括部長 鈴木孝文  
 電 話 03-5205-2901

特別損失の発生及び平成19年6月期業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成19年6月中間期におきまして、下記の通り特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、最近の業績の動向をふまえ、平成18年8月23日付「平成18年6月期決算短信（連結）」及び同日付当社「平成18年6月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正し、配当予想を修正いたしますので、お知らせ致します。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

当社は約5年前から多くの台湾企業へ有機EL製造装置の受注活動と納入をしてまいりました。しかし昨年後半から今年に入り、数社の台湾企業が有機EL事業からの撤退・縮小ならびに事業の一時停止などが相次ぎ、そのうち2社向けの装置につきまして、当期に検収及び売上計上を見込んでおりましたが、出荷停止措置をとる可能性が強くなりました。そのため当社は仕掛品である製造装置の転売先と活用を模索しておりますが、販売にはなお時間がかかり、監査法人からの指摘もあり、特別損失として計上することと致しました。なお、この特別損失は1,080百万円を計上する見通しとなりました。

2. 平成19年6月期 中間業績予想の修正

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	5,710	△48	△53
今回修正 (B)	3,321	△1,117	△2,307
増減額 (B-A)	△2,389	△1,069	△2,254
増減率	△41.8%	—	—

## (2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	3,880	△52	△55
今回修正 (B)	1,713	△1,129	△2,314
増減額 (B-A)	△2,167	△1,077	△2,259
増減率	△55.9%	—	—

## (3) 修正理由

連結売上高につきましては、主力の有機ELディスプレイ製造装置の受注が、国内・海外（韓国）パネルメーカーを中心に量産装置の大型化に伴う新規仕様や細部機能の確定に時間がかかっており、そのため受注までの期間が長期化することで、前期に比べ大幅な受注減となり、その結果として、3,321百万円の見通しとなりました。

連結経常利益につきましては、前期より取り組んでまいりました経営改革により、原価の低減と効率化を推進いたしました。しかし、売上の減少による影響が大きく、1,117百万円の損失となる見通しとなりました。

連結当期純利益につきましては、上記の理由及び特別損失の発生により2,307百万円の損失となる見通しとなりました。

## 2. 平成19年6月期 通期業績予想の修正

## (1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	14,270	306	270
今回修正 (B)	8,410	△2,050	△3,260
増減額 (B-A)	△5,860	△2,356	△3,530
増減率	△41.1%	—	—

## (2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	9,600	246	240
今回修正 (B)	4,140	△2,100	△3,300
増減額 (B-A)	△5,460	△2,346	△3,540
増減率	△56.9%	—	—

### (3) 修正理由

有機ELの市場動向におきましては、下期にはa uからメインディスプレイに有機ELを採用したフルカラー・ワンセグ対応の携帯電話（京セラ）をはじめ、複数社から発売計画が発表されております。今後、国内・海外メーカーの有機ELディスプレイの量産が加速し、引合・受注は回復すると予測致します。また、当社が開発を進めている有機薄膜太陽電池製造装置や薄膜C I S太陽電池製造装置等も積極的な販売活動を促進しておりますが、当社事業の特性上、受注から製造・売上計上までは装置仕様により約6ヶ月から10ヶ月と長期間を要するため、通期での連結売上高は8,410百万円となる見通しとなりました。

連結経常利益につきましては、前期より取り組んでまいりました経営改革を下期もより強力で推進し、更なる売上原価・販管費の低減と効率化を図ります。しかしながら、売上の減少による影響等により、2,050百万円の損失となる見通しとなりました。

連結当期純利益につきましては、上記の理由及び特別損失の発生等により3,260百万円の損失となる見通しとなりました。

## 3. 配当予想の修正

### (1) 配当予想の修正

	中間期	期末	年間
前回予想	0円	3円	3円
今回修正予想	0円	0円	0円
(ご参考) 前期実績	0円	0円	0円

### (2) 修正の理由

当期は復配を目指し、売上目標の達成と業務改革に積極的に取り組んでまいりましたが、収益環境は非常に厳しく、無配とさせていただきます。早期の復配に向け、業務改革に取り組んでまいります。

## 4. 下期以降に向けた経営構造改革のための施策

### (1) 役員報酬及び従業員給与・賞与の削減、並びに早期退職優遇制度の適用について

役員、執行役員の報酬を削減いたします。尚、管理職及び一般社員につきましても賃金の一部削減を実施し、労務費の低減を図ります。また、早期退職優遇制度の適用及び人員配置の適正な見直しにより、労働生産性を高めます。なお、その効果につきましては、下期以降の業績に反映致します。

### (2) 本社機能の見附工場への統合について

事務所運営費用の経費削減及び全体的な業務効率、並びに生産性の向上を図るため、本社機能のうち営業部、総務部、財務・経理部を見附工場に統合いたします。それにより、現本社屋事務所の賃貸借契約は可及的速やかに解約致します。

(3) 連結子会社との一部業務統合について

連結子会社との間で共通した管理業務を統合することで、業務効率の向上、及び経費削減を図ります。

(4) 一部の工場売却について

全社的な業務形態の見直しの一つとして、長岡工場の売却によるキャッシュフローの改善を図ります。なお、売却に関わる時期等につきましては、確定次第お知らせ致します。

(5) GEとの業務提携による新規技術・事業への取り組みについて

当社は本日付で「GEグローバル・リサーチセンターと有機ELディスプレイ・有機エレクトロニクス製品等製造向け「PECVD膜封止技術及び装置」の共同開発及び商業活動に関する業務提携のお知らせ」を発表いたしました。今後はこの共同研究を積極的に推進し、有機エレクトロニクス技術の発展と当社の製造装置の売上増加を見込んでおります。なお、この膜封止技術の商業化実現により、有機ELディスプレイは軽量化、薄型化、大型基板化、フレキシブル化への応用が加速するものと思われれます。また、有機照明、有機太陽電池、有機半導体など、次世代技術としての活用を推進いたします。

(6) 製品レンジ拡大への取り組みについて

前期より取り組んでおります新たな事業の柱として、有機EL製造技術の応用により「非シリコン系薄膜太陽電池製造装置」の分野にも進出してはおりますが、一層強化を図り、既存の有機ELディスプレイ製造装置と共に事業の拡大を見込んでおります。更に、既存の真空技術関連製造装置も営業体制を強化し、水晶デバイス・電子部品分野への製造装置を拡販することで、売上・収益の安定を目指します。

5. ご参考：前期の実績（平成17年7月1日～平成18年6月30日）

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期（7/1～12/31）	6,296	△34	△116
通期（7/1～6/30）	13,800	135	△154

(2) 個別

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期（7/1～12/31）	4,687	△51	△127
通期（7/1～6/30）	10,226	114	△170

※なお、平成19年6月中間期決算短信（連結・個別）につきましては、2月22日を予定し

ております。

以 上

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。